

長良川河口堰シンポジウム「川と海をつなぐ」

海苔養殖漁業と 長良川河口堰

株式会社ウミト・プラス 納谷沙織

2026年 6月 21日



6/21^日
2026

開場 13:00
開演 13:30-16:30

長良川国際会議場/国際会議室
入場無料/予約不要 (定員:100名)
席料1500円

主催:よみぎえれ長良川実行委員会

▼基調講演
『伊勢・三河湾の養殖養化問題』
鈴木 雅明 さん (長崎大学特任教授)

▼報告 1
『いま伊勢湾の海苔養殖は』
納谷 沙織 さん (株式会社ウミト・プラス代表取締役)

▼報告 2
『対1区間漁30年、いま汽水域の生き物は』
千藤 克彦 さん (長良川河口堰事務所長)

コーディネーター
熊谷 志郎 (長良川河口堰実行委員会共同代表)

シンポジウム
川と海をつなぐ

長良川河口堰実行委員会
私たちがよみぎえれ長良川実行委員会は、
河口堰建設にかかわった人、長良川河口堰を研究・調査する人、
長良川河口堰の自然環境を保護する人など、
今年も「川と海をつなぐ」シンポジウムを開催します。
「川と海をつなぐ」をテーマにしたシンポジウムを開催します。
長良川を愛するみなさまぜひご参加ください。

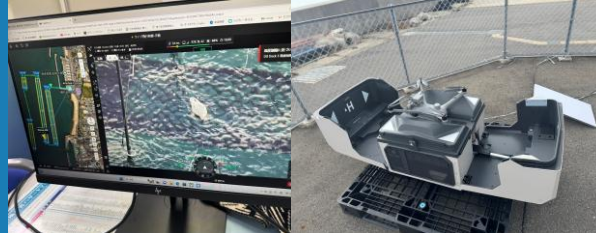
本日の流れ



- ① ウミト・プラスの紹介
- ② 鬼崎漁協様と海苔養殖
- ③ 海苔に必要な栄養素（リン・窒素）
- ④ 木曾三川の恵みと川と海のつながり
- ⑤ 長良川河口堰がもたらした影響
- ⑥ 河口堰への要望とウミト・プラスの取り組み

株式会社ウミト・プラスとは

水産業のDX推進を目指すスタートアップ



創業のきっかけ

株式会社宙Libで衛星データを活用した海洋環境の可視化に取り組んでいました。しかし、漁師の皆様と向き合う中で、現場には別の課題が数多くあることを知り、海の事業を立ち上げました。



支援を始めた理由

漁師の皆様の高い技術や経験を、DX(AX)、科学的アプローチで支え、持続可能な漁業に貢献したいと考えました

ビジネスとして

漁業の課題を知る中で、DX(AX)により生産性向上や課題解決の可能性があると感じました。
現在は海苔養殖業を中心に実証を進めていますが、将来的には漁業全体の課題解決につながるサービス展開を目指しています。



株式会社ウミト・プラス

名古屋商科大学大学院の メンバーで立ち上げた会社です。



教授 北原 康富
YASUTOMI KITAHARA



教授 澤谷 由里子

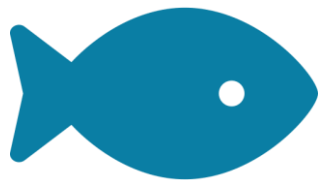


教授 小山 龍介

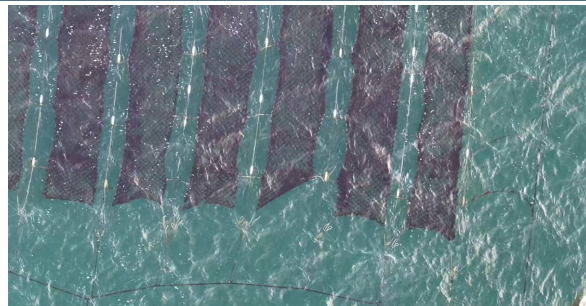


ウミト・プラスとは

ウミト・プラスは海に関わる課題解決を通じてサステナブルな社会創造に貢献します。



持続可能な海の一次産業を テクノロジーで支える



設立

2025年2月26日

名古屋商科大学大学院
メンバーで立上げ



主な事業

- ・廃漁網・廃漁具のリサイクルとリユース
- ・鳥獣害・食害対策
- ・漁業コンサルティング
- ・生態系調査と保全



主な連携先

愛知県漁連
愛知県水産試験場
愛知県水産課

名古屋商科大学大学院

愛知県三河野鳥の会
ふるさとけものネットワークなど

令和7年～（2025～2026年）

令和7年2月

ウミト・プラス設立

名古屋商科大学大学院の修士生が集い、漁業・水産業が抱える課題に挑み、持続可能な海の価値を創出するために会社を設立しました。

令和7年4月2日

鴨の海苔食害対策アタックドローン実験に成功

鬼崎漁協様の協力のもと、アタックドローンを活用した鴨の追い払い実験を実施し、高い効果を確認できました。

令和8年1月

水産試験場からドローンによる鴨追い払いの委託研究

豊浜漁協様にてアタックドローンによる鴨の追い払い実証実験を行う委託が正式に採択。

令和8年6月21日(日)

長良川シンポジウムにて ～海と川をつなぐ～



令和7年2月～3月

リン酸塩濃度の簡易計測実証

愛知県鬼崎漁協様のご協力のもと、海水中の栄養塩（リン酸塩）濃度を簡易に計測するキットの実証試験を行いました。



令和7年8月～12月

愛知クロスステックDX推進事業 AI×アタックドローン実証実験12月未了

愛知クロスステックDX推進事業に採択され、鴨の追い払いに特化したAIと自動ルート飛行ドローンによる鴨の追い払いを実施しました。



令和8年度1月

鬼崎漁協にて1週間鴨の自動追い払い実証実験

強風、雪の中でも安定して追い払いを実施。夜間に高い効果を確認。各種メディアにも取り上げられ、今後の期待や評価を得ることができた。

令和8年6月

ステーションAI 入会審査合格

AIステーションの入会審査に合格し、AI技術のさらなる社会実装とネットワーク拡大に向けた新たなステップへと進みました。

令和8年11月～3月

鬼崎漁協にてAIカメラドローンによる実証実験予定

SN-IPP8085QAS-B
RIP 147° Panoramic Bullet Network Camera



ウミト・プラスの強み



漁業者



研究



大学



行政



企業

一つの出会いが次の出会いにつながり、多様な専門家とのネットワークが生まれました。

そのつながりを活かし、現場の課題を迅速に実証し、サービスへつなげています。

現場の課題を、素早く動かす。

それがウミト・プラスです。



ウミト・プラスの実証からサービス化への取り組み

現場課題の発見から事業化へ

課題発見



現場課題の把握×漁業現場との連携

鬼崎漁協さまをはじめとする複数の漁協と連携し、現場課題を把握。実現可能性の高いテーマから実証を検討し、取り組みを開始。

技術検証



水質検査キットの検証

漁業現場でも活用できる簡易水質検査キットについて、知多海苔研究会の分析データとの比較検証を実施。現場で漁師さんが活用可能な測定手法の確立。

サービス開発

AI技術による課題解決

鴨（ヒドリガモ・マガモ）による食害をAIドローンで自動検知・追い払い。革新的な被害軽減策として実用化へ。



鬼崎漁協様の 海苔養殖

2025年度


Umito-Plus

[株式会社ウミト・プラス](#)

鬼崎漁協様の海苔養殖について

40～50%

愛知県の実産シェア

7,000万枚

年間生産枚数

200等級以上

鬼崎ブランドの品質基準

愛知が誇る最高水準の海苔産地

検査は全国から視察が訪れる品質管理体制

漁業者全員が品質検査に参加し、検査員になるまでには長い経験と熟練技術の習得が必要です。

その品質管理体制は全国から視察が訪れるほど高く評価されています。

厳密な品質管理プロセス

海苔の 等級仕訳検査

1. 外観検査

色つや、破れ、異物の有無などを認めます。



2. 等級の判定

独自の厳格な基準に基づき、品質ごとに正確に仕分け分類します。



3. 最終品質保証

熟練した検査員の経験と技術が、鬼崎ブランドの品質を支えています。

海苔の等級仕訳検査の様子

一枚一枚、熟練の目で

確かな品質を皆様の食卓へお届けします



海苔養殖のながれ

9月に準備開始 → 11月～3月が漁期

9月

種付け開始

胞子を網に付着



10月

準備

漁場整備など



11月

初摘み

漁期スタート



12月

初競り

今期の大体の価格が決まる



1～2月

継続摘採

安定供給期



4月初旬

漁期終了

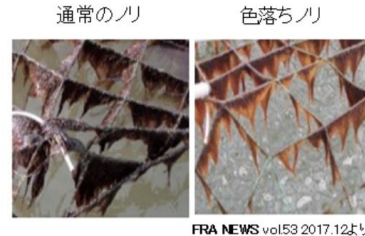
網や漁具の回収



漁期中（11月～3月）は海苔の栄養素（リン・窒素）の安定供給が品質を左右します＆漁期初旬は水温が重要。

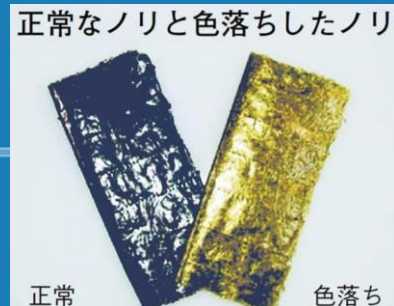
海苔に必要な栄養素 ①リン (P)

海苔の「黒さ」を決める



海苔の「黒さ」＝商品価値

リンが不足すると...



わずか約2日で茶色くなり、値がつかなくなる

クロロフィルが増えすぎると競合し、海苔が育たなくなる点にも注意が必要

海苔に必要な栄養素 ②窒素 (N)

海苔の「味」を決める

海苔の「味」＝ブランドの核心

窒素が不足すると...



紙を食べているような
味のない海苔になってしまう



リン・窒素どちらが欠けても海苔の品質は落ちてしまう。

木曾三川の恵みと鬼崎の海苔

川と海のつながりが産地の競争力を生む



山・森林

リン・窒素を
蓄積・溶出

木曾三川

豊富な栄養分を
河川で運搬

伊勢湾・三河湾

栄養塩が
適切に供給

鬼崎の 美味しい海苔

黒くて旨み豊かな
高品質海苔

木曾三川の恵みが産地を支える土台のひとつ。

川から海へ供給される栄養塩（リン・窒素）は、海苔にとって重要。
その上で、漁業者の高い技術と厳格な品質管理によって、鬼崎ブランドの海苔が生み出されています。



海苔養殖を脅かす食害問題

現在も革新的な解決策がない深刻な課題

鬼崎漁協では、年によって数千万円～1億円規模の被害が発生

渡り鳥（ヒドリガモ・マガモ）

美味しい新芽・若芽美味しい海苔を好んで食べる。基本的に夜間に食害。

爆音機は苦情で使用不可。現在も革新的な追い払い方法なし。



クロダイ

温暖化の影響か12月頃まで滞在するようになった。

防除網で囲う方法が最も効果的だが、毎日洗う重労働が伴う。



鴨が好んで食べる海苔＝柔らかく品質の高い海苔最も価＝値の高い海苔ほど被害を受けやすい。

長良川河口堰がもたらした影響

河口堰が出来てから30年——伊勢湾の変化

1 リン・窒素の流入が減少

河口堰が閉まると河川から海へ供給される栄養塩（リン・窒素）の減少が指摘されている。伊勢湾全体の漁業や海苔養殖への影響が懸念されている。

鬼崎漁協様のような河口付近でも栄養塩の影響はあるが、師崎や日間賀島など河口から遠ざかれば遠ざかるほど栄養が行きわたらなくなってしまった。

私自身は河口堰の専門家ではありません。しかし、鬼崎漁協様をはじめ多くの漁業者の方々から、海苔の色落ちや栄養塩不足についてお話を伺う機会がありました。

2 汽水域の消失と生物多様性の減少

淡水と海水が混じる汽水域が失われた。二枚貝などの生物多様性が激減し、生態系全体のバランスが崩壊。



揖斐川



長良川

河口堰調査

長良川で3分間20名でカニをとりました。

木曾三川の栄養塩と伊勢湾の主な海苔養殖エリア

木曾三川から
栄養塩が伊勢湾に広がる
イメージ
→ 栄養塩の流れ

木曾三川
(揖斐川・長良川・木曾川)
木曾三川河口

長良川河口堰

愛知県

鬼崎 (大野・蒲池・榎戸)
木曾三川の栄養塩の恩恵を
比較的受けやすいエリア

知多半島

師崎
鬼崎より影響が弱まるエリア

日間賀島
さらに影響が弱まるエリア

渥美半島

三重県

伊勢湾

栄養塩 (リン・窒素) の影響イメージ

- 河口に近いエリア
(栄養塩の影響を受けやすい)
- やや内湾のエリア
(影響は徐々に弱まる)
- 湾口に近いエリア
(影響がさらに弱まる)
- 湾口・外海に近いエリア
(影響は最も小さい)



木曾三川から供給される栄養塩 (リン・窒素) は伊勢湾内に広がります。鬼崎周辺は比較的その影響を受けやすい一方、師崎・日間賀島など湾口部へ向かうほど影響は小さくなると考えられています。

河口堰調査

長良川河口堰調査にて 3分間20名で揖斐川と長良川でカニをとりました。



揖斐川

弁慶蟹がこんなにとれました。

よし草がたくさん生えていてその中をガサッとかき分けるとたくさんいます！

揖斐川と長良川は道路を挟んで数mしか離れていません。



長良川

最初に死の川と言われている長良川でカニをとります。

全員で**3匹のカニ**しかとれませんでした。

細々としていて弱々しいです。

生態系の回復と今後のアクション



汽水域の存在が鍵

河口堰を取っ払うと1~2年でしじみやハゼ、弁慶蟹など様々な生態系が元に戻る事がわかっています。



根本原因の解決が必要

ゴミを取り除けたとしても海苔養殖業者さん側の被害は減りますが、根本原因の解決にはなりません。



交渉と要望

開門の機会を増やすべく国土交通省との交渉を進める事が重要と考えます。

鬼崎漁協様としては**常時アンダーフラッシュ**（全開門が一番ではあるが）を実施して欲しいという願いがあります。

長良川河口堰がもたらした影響②

河口堰の水位が上がって開門した際の海苔養殖漁への打撃—2023年の事例—



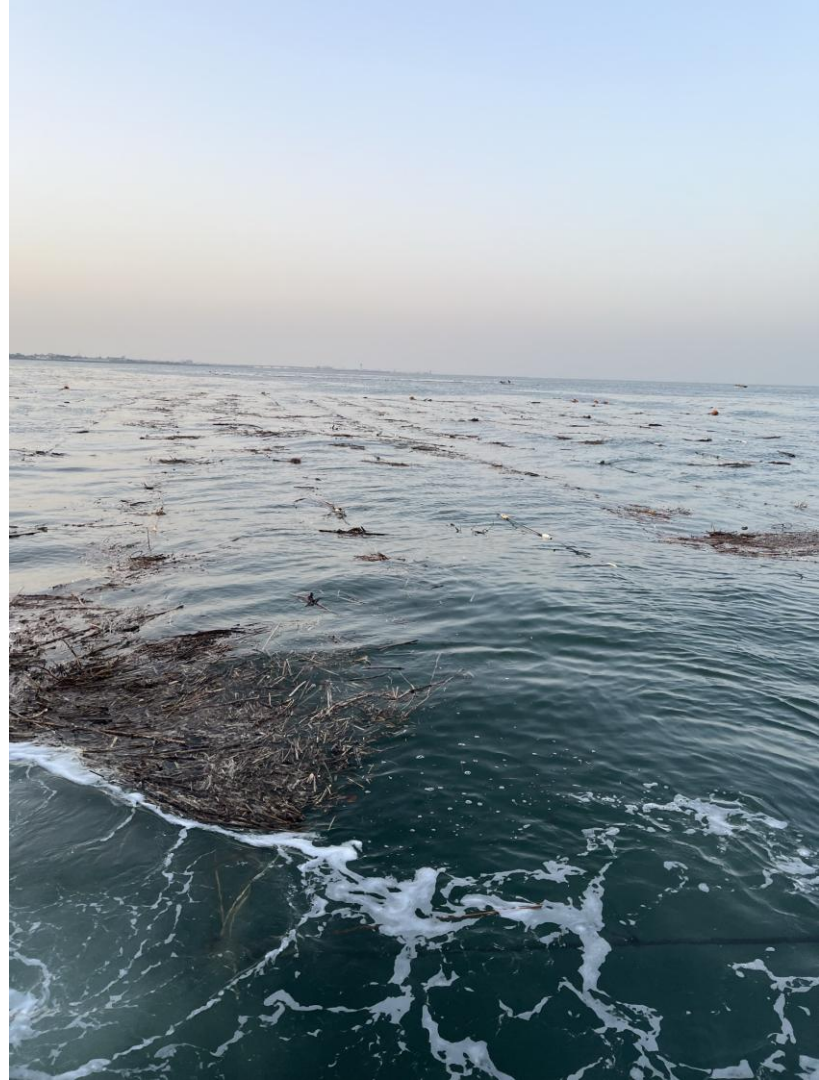
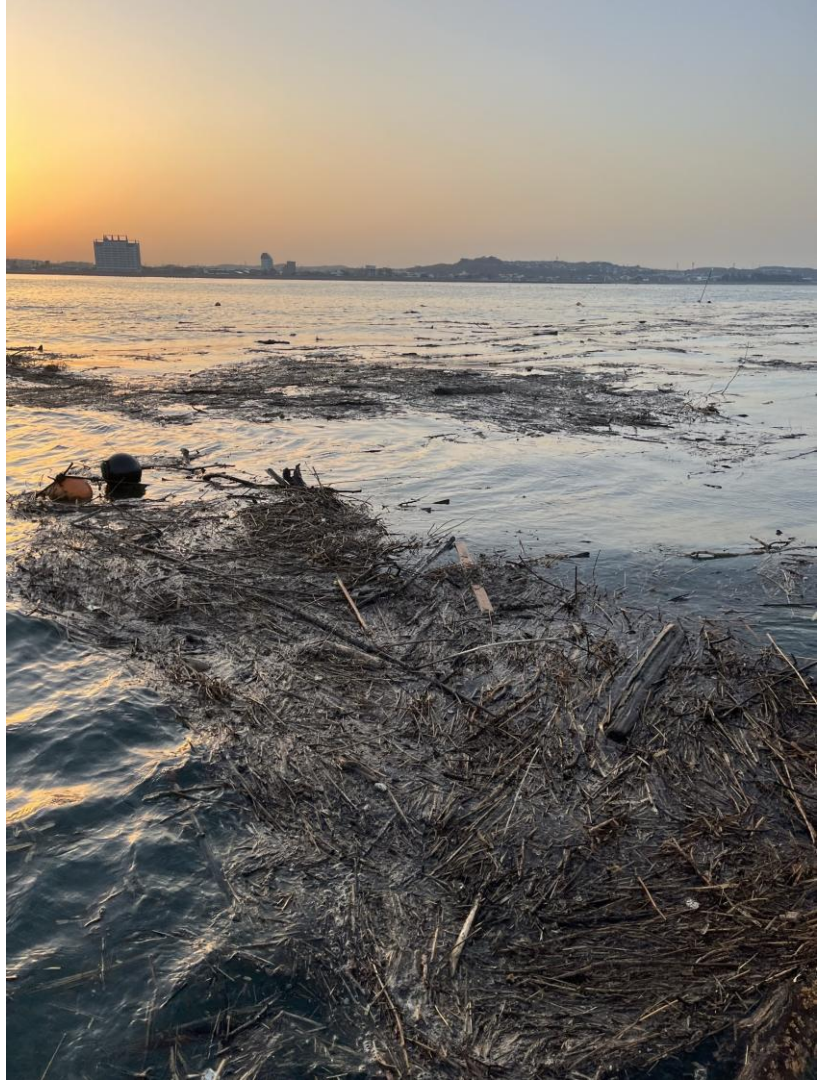
令和5年3月29日：堰開放時に事件が起きた

大雨により堰が一時的に開門されたときのこと。

約1億5千万もの損害（約750万枚の被害）

大切に育てた海苔を開門からたった40分で
全て廃棄せざるを得ない事態に・・・





長良川河口堰がもたらした影響（続き）

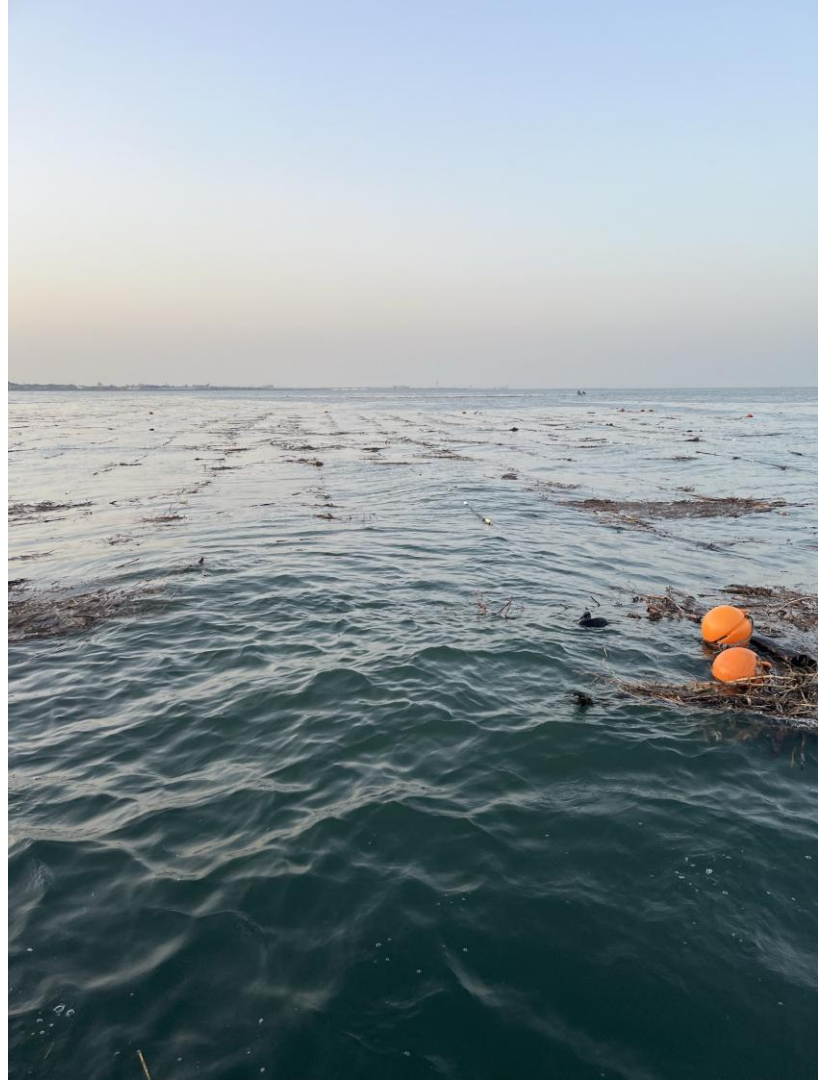
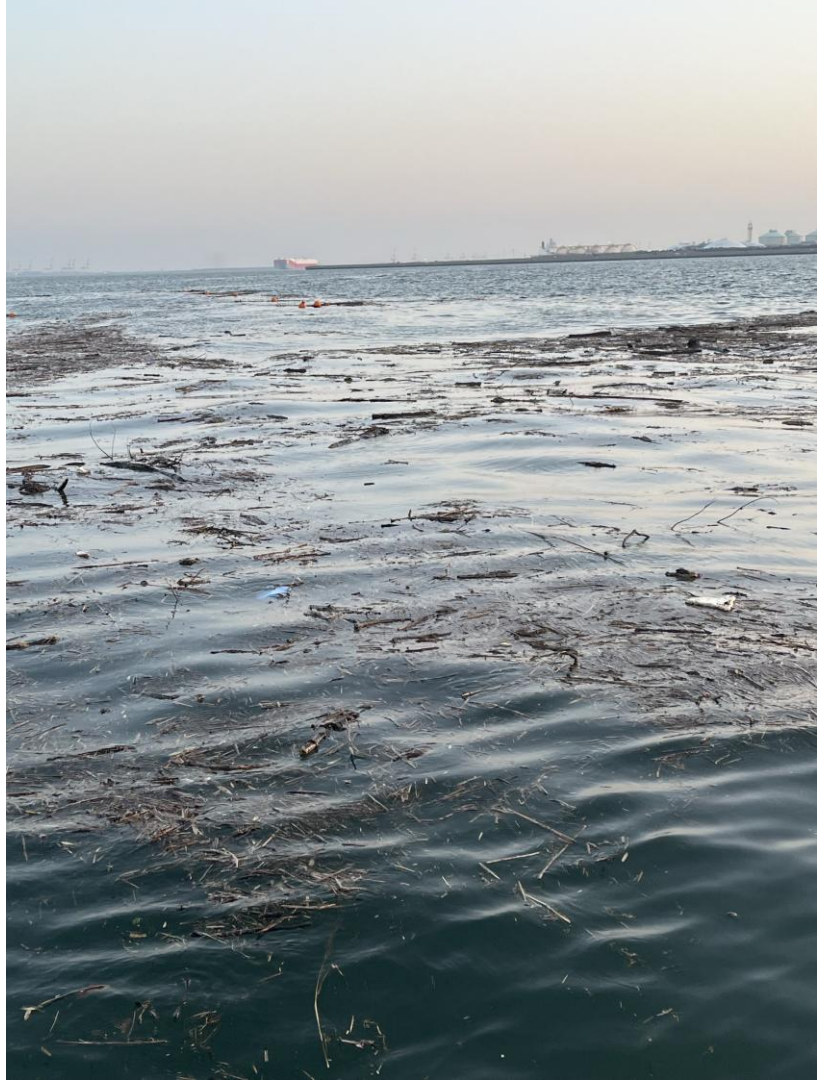
河口堰の水位が上がって開門した際の海苔養殖漁への打撃—2023年の事例—

なぜ大きな被害になったのか

- 全開にすると川の流れるような水流になった
- 情報伝達に課題があった
- 漂流ごみの回収・管理方法について改善の余地があった可能性
- 河川管理者と漁業者が直接意見交換する機会が少なかった

河口堰と海が共存するためには、継続的な対話と相互理解が必要です。











長良川河口堰がもたらした影響（3）

河口堰の水位が上がって開門した際の海苔養殖漁への打撃—2023年の事例—



2023年の被害をきっかけに、川と海のつながりへの関心が高まりました。

鬼崎の海苔は地域の産業であり、日本の食文化を支える大切な資源です。

今後も川と海のつながり、そして栄養塩の重要性について議論と検証が続くことを願っています。



長良川河口堰に求めること

海苔業者・ウミト・プラスの立場から

最優先

常時アンダーフラッシュの実施（栄養塩供給を意識）

理想

全開放による自然な流れの回復

情報公開

オーバーフラッシュの頻度・条件の公開

対話

開放する際の漁業者との意見交換の継続

モニタリング

水質・生態系の継続的な調査



「長良川を豊かな自然の川に戻したい！」川側にも問題が多数。

よみがえれ長良川実行委員会の皆さま

- ・ 河口堰を取っ払うと約1～2年でしじみやハゼ、弁慶蟹など様々な生態系が回復する可能性
- ・ 汽水域の存在が鍵
- ・ 海も川も自然の流れが一番良い
- ・ 川と海のつながりについて、今後とも検証と議論を続けていきたい



ウミト・プラスの取り組み

1

リン水質検査

川・海域のリン濃度を簡易測定。
開門・閉門時のリン濃度の変化を可視化できる可能性



2

食害の被害を減らし、少しでもおいしい海苔の生産枚数を増やす

AI技術による食害対策。鴨やクロダイによる食害の軽減を目指し、
AIカメラやドローンを活用した実証を進めています。



3

業界への情報発信・橋渡し

川と海、それぞれの立場をつなぎ、未来に向けた対話と理解を支援します。



鬼崎地区のり漁場 リン 簡易計測キット 水質検査報告

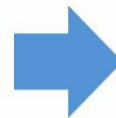


「りん」簡易測定キット紹介

外観



測定用ガラスセルに10mℓ
海水を入れる。

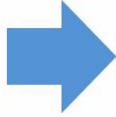


測定器に海水を入れゼロ設
定(初期設定)をする。

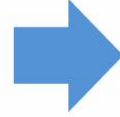
「りん」簡易測定キット紹介



測定用セルを取り出し
試薬を入れる。



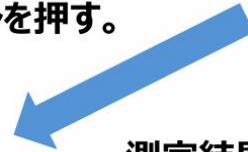
試薬の粉が無くなるまで
2分ほど軽くゆする。



再度測定用セルを測定器に
入れボタンを押す。



3分間のカウントダウンが
始まる



測定結果が出る。

海水水槽の水で確認。
作りたての海水 117

実際の水槽の水(とても汚い) 200以上
(最大値が200)

※家庭用の海水キットで作った水の数値です

◎ 目的

漁業者が現場で活用できる簡易水質検査キットかどうかを検証するため、知多海苔研究会の分析データとの比較を行いました。

☞ 検証方法

鬼崎地区4地点において継続的な水質測定を実施しました。知多海苔研究会の分析データを基準値とし、簡易測定キットとの比較検証を行っています。

本発表では、測定条件を統一するため木曜日の測定結果を用いて評価しました。
(実際は月・木の2回で測定を行っています)

株式会社ウミト・プラス

水質検査 相関分析報告

リン酸態リン濃度
R6年度・R7年度 統合データによる検証

測定機器：ハンナ インストルメンツ HI736 | 測定方法：アスコルビン酸法
測定地点：大野タカ・ドウカン（西ノ口）・蒲池沖・海泉（南部）
期 間：R6年度 2025年1～3月、R7年度 2025年10月～2026年3月

2026年6月

分析サマリー

R6+R7年度データ統合 全89サンプル

大野タカ

相関係数

$r = 0.942$

n = 25

非常に強い正相関

ドウカン（西ノロ）

相関係数

$r = 0.917$

n = 22

非常に強い正相関

蒲池沖

相関係数

$r = 0.868$

n = 18

強い正相関

海泉（南部）

相関係数

$r = 0.879$

n = 24

強い正相関

全地点合算（R6+R7） $r = 0.907$

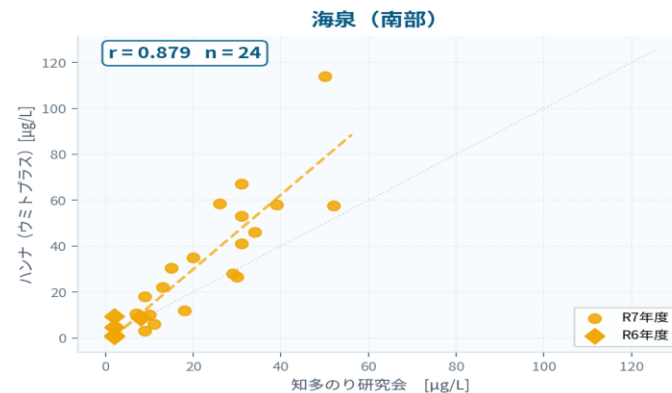
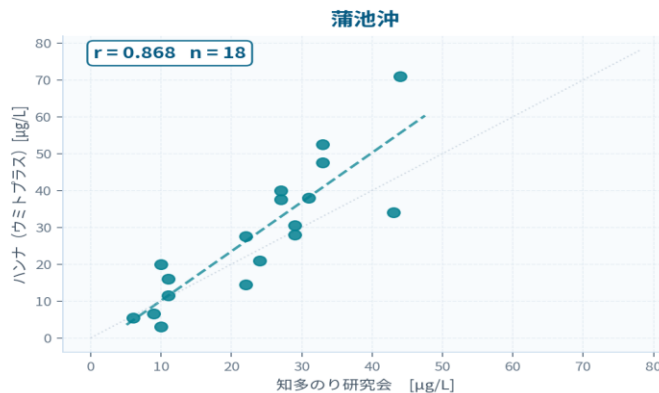
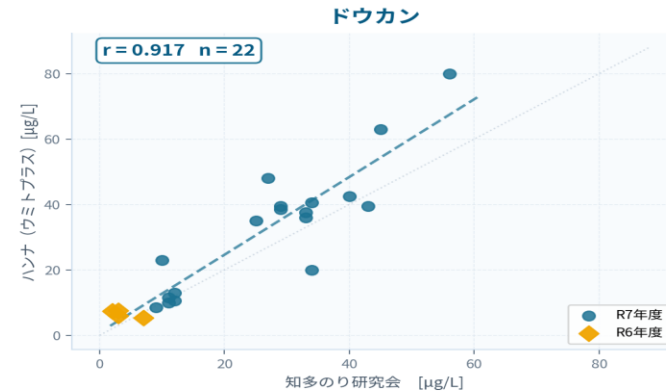
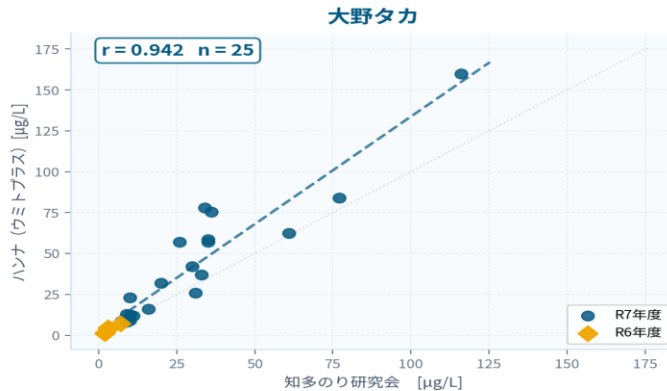
n = 89 → 4地点すべてで強い正相関を
確認

地点別 相関分析 (R6+R7年度)

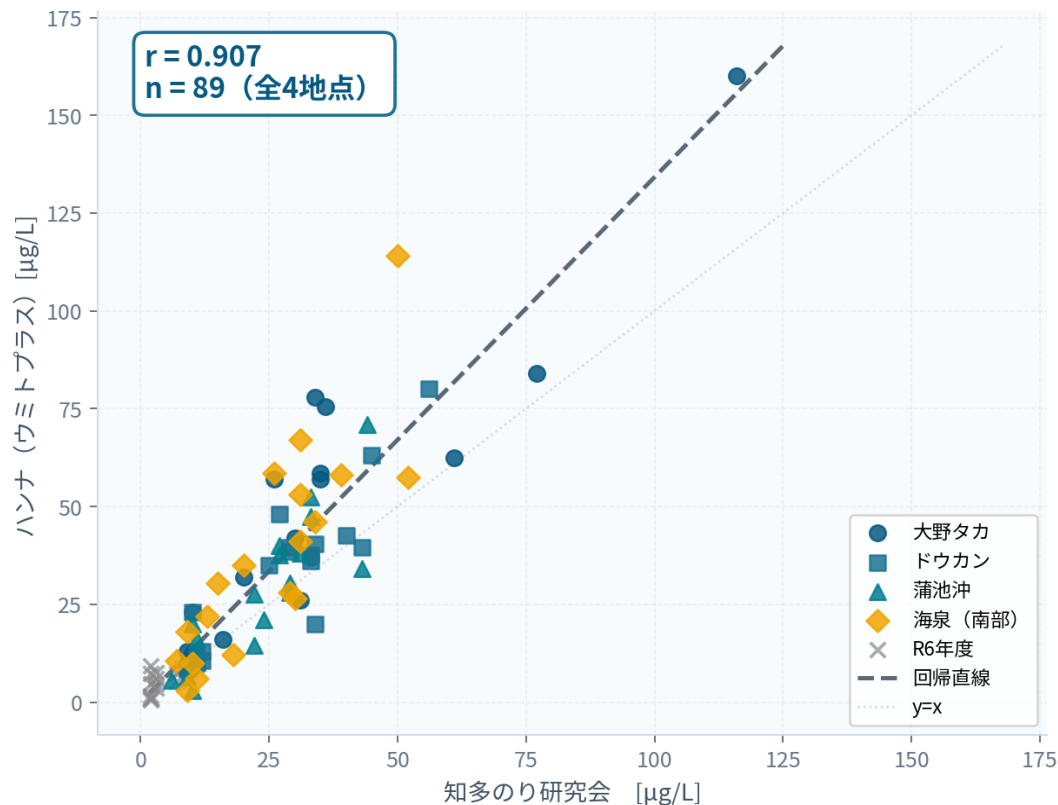
X軸：知多のり研究会測定値 Y軸：ウミトプラス (ハンナ HI736) 測定値 単位： $\mu\text{g/L}$

● R7年度

● R6年度



全地点合算 相関分析 (R6+R7年度)



全地点合算結果

$r = 0.907$

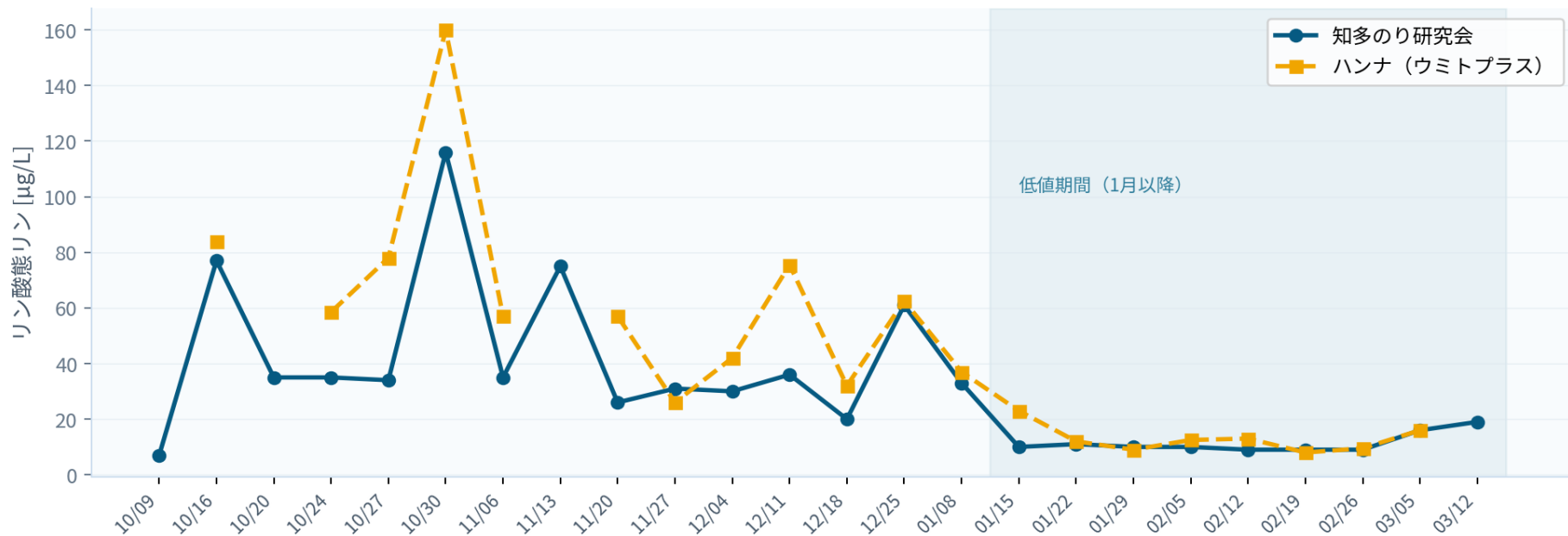
$n = 89$ (4地点・2年度)

考察

- ◆ R6年度 (低値のみ・ $n=14$)
値域が2~8μg/Lと狭く
相関係数が出にくい構造
- ◆ R7年度 ($n=75$)
値域が7~116μg/Lに広がり
各地点で強い相関を確認

時系列推移 大野タカ（R7年度）

知多のり研究会とハンナの測定値が同じ上下動を示している（R7年度：2025/10～2026/3）



- 1月以降の低値期間でも両者の傾向が一致
- 高値期（10～11月）で値域が広がり相関が明確に
- ハンナは知多研究会より若干高めに出る傾向あり（補正の検討余地）

結論

01 4地点すべてで $r \geq 0.86$ の強い相関を確認

大野タカ $r=0.942$ 、ドウカン $r=0.917$ 、蒲池沖 $r=0.868$ 、海泉（南部） $r=0.879$ 。全地点が「強い相関」の水準。

02 全地点合算 $r = 0.907$ ($n=89$)

R6・R7の2年度にわたり、ハンナ HI736 は知多のり研究会の測定値と「非常に強い相関」を示した。

03 測定機器・手順の妥当性を確認

全地点合算で $r = 0.86$ ($n=89$)。R6・R7の2年度にわたり、ハンナ HI736は知多のり研究会の測定値と高い相関を示した。

04 漁師への簡易測定ツールとして有望

高値期・低値期を通じた傾向把握に有効。色落ちリスクの早期警告ツールとして展開できる水準が確認された。

株式会社ウミト・プラス

低値域 リン酸態リン濃度

漁師さんたちの指標としてハンナは使えるか

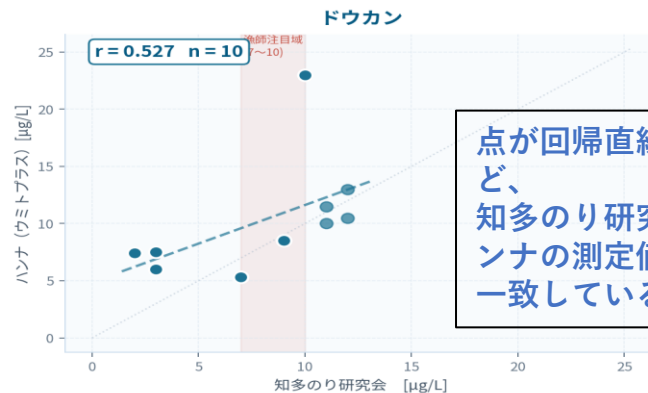
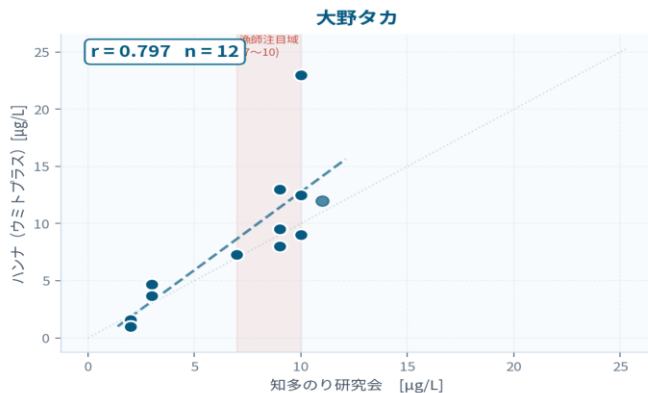
対象データ：知多のり研究会の測定値が $15 \mu\text{g/L}$ 以下のデータ（低値期間）

R6年度（2025年1～3月）＋ R7年度（2026年1～3月）合計40サンプル

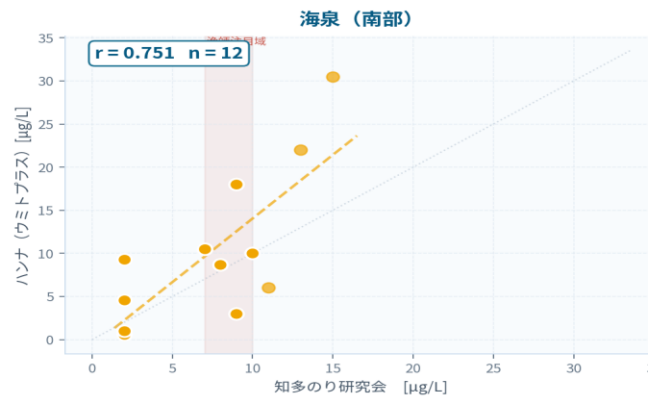
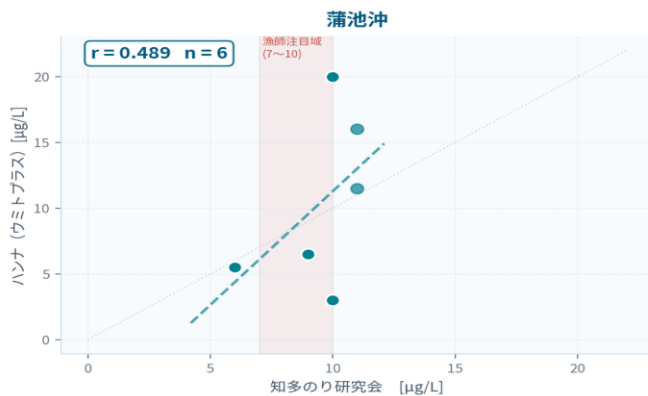
漁師さんが最も有効な値域： $7\sim 10 \mu\text{g/L}$ （知多海苔研究会の数値）を中心に分析

地点別 相関分析（低値域：知多 ≤ 15 μg/L）

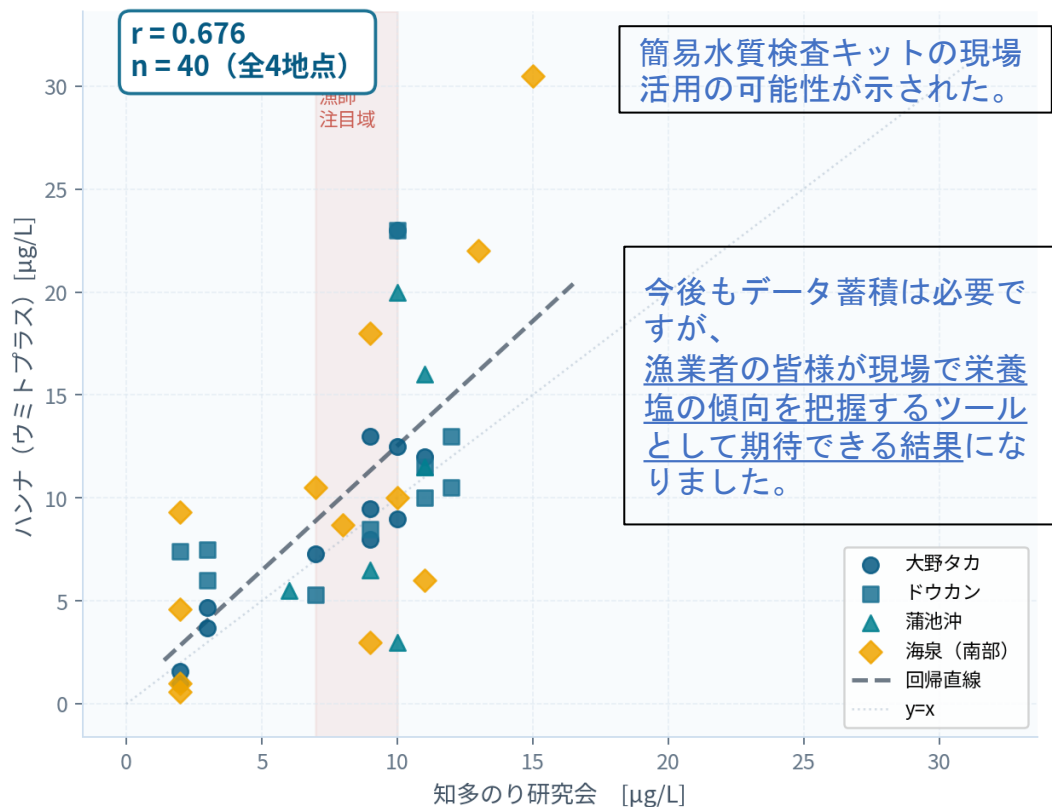
X軸：知多のり研究会 Y軸：ハンナ（ウミトプラス） 単位：μg/L ピンク帯＝漁師注目域（7～10）



点が回帰直線付近に集まるほど、知多のり研究会の測定値とハンナの測定値の傾向が一致していることを示します。



全地点合算 相関と誤差（低値域）



地点別相関係数（低値域）

大野タカ $r = 0.797$ $n=12$

ドウカン $r = 0.527$ $n=10$

蒲池沖 $r = 0.489$ $n=6$

海泉（南部） $r = 0.751$ $n=12$

全地点合算 $r = 0.676$ $n = 40$

低値域の測定誤差（ハンナ-知多）

平均 +2.1 $\mu\text{g/L}$ 標準偏差 ± 5.0 ± 5 以内75%

考察 ハンナは漁師の皆さまの指標に使えるか？

結論：「低値かどうかの判断」には使える。「絶対値」の精度は地点差あり

① 低値の「傾向」は捉えられる

全地点合算で $r=0.676$ 。全体より低いものの、値が下がるタイミングは概ね一致している。
大野タカ ($r=0.797$) と海泉 ($r=0.751$) は特に信頼性が高い。

② ハンナは平均+2.1 $\mu\text{g/L}$ 高めに出る傾向

知多が「10」のときハンナは約12前後が目安。
→ 「ハンナで12~13以下になったら要注意」という地点別目安値の設定を推奨。

③ $\pm 5\mu\text{g/L}$ のばらつきを前提に使う

測定回ごとに多少のブレがある。同じ日に2回測定し平均を取ることで精度が上がる（R6、R7はそのように実施）。
「ハンナで10以下が2回続いたら・・・」色落ちのリスク。

④ 色落ちの「予兆」を現場で即日検知できる価値は大きい

知多のり研究会の測定は週1回。ハンナは漁師さんが測りたいタイミングで自分の漁場で測定可能。
急激な低下を捉えられたケースも確認済み（R7年度）。
スピードに大きな優位性がある。

AIドローン 食害被害の軽減

株式会社ウミト・プラス



対象となる業務の全体像

AIカメラ × Dock 3 自動追い払いシステム

ウミトプラスの鳥害対策ソリューションは、高度なAI画像認識と自律飛行ドローンをシームレスに統合。24時間365日の監視体制で、効率的かつ即応的な鳥害対策を実現します。



鴨のAI画像認識により自動検知

海苔養殖場の鴨を自動識別し、位置データをリアルタイムにドローンに送信！このカメラの映像も携帯で見ることができます。



Dock 3連携と自動飛行

AIカメラと連携して、ドローンが鴨の追い払いに最適なルートめがけて自動発進、自動帰還します。

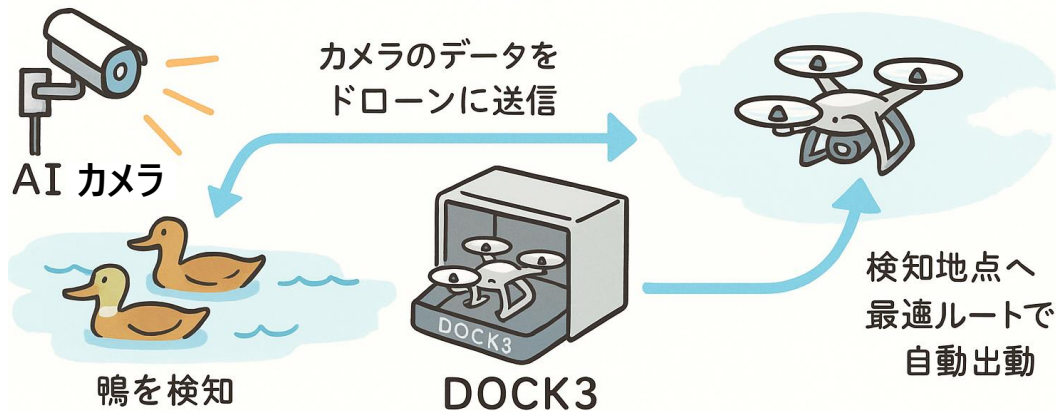


海苔養殖に集中して生産枚数UP！

携帯で飛行中のドローンの映像も見ることが出来ます。人的リソースを削減し、海苔の食害被害を軽減します。

ウミトプラスの鳥害対策ソリューション

AIカメラによる自動検知と、Dock 3を基点とした自律飛行ドローンを連携させたシステムです。



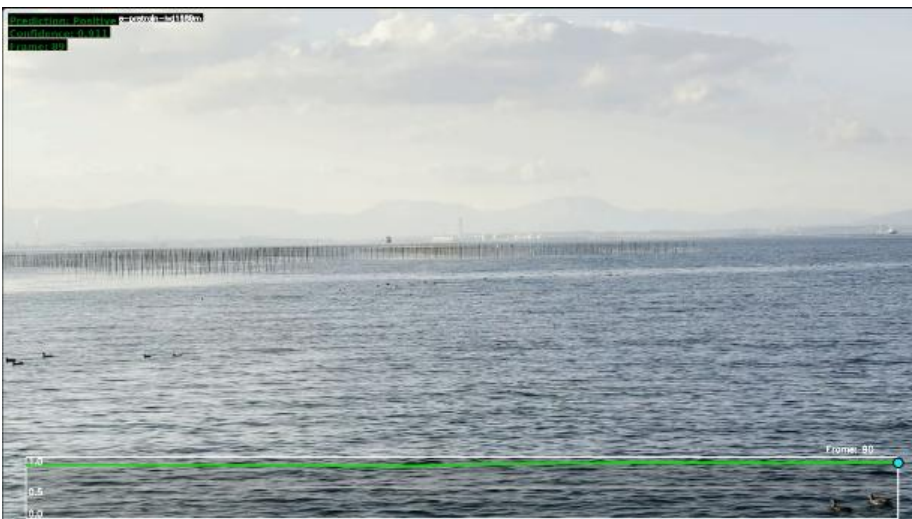
自動で鴨を効率的に追い払います。

AIによる鴨の自動検知 結果

AIによるカモの検出精度	目標値	結果
漁場で撮影した実際の映像をもとに認識精度（正解率）と再現率を評価	正解率：80% 再現率：80%	正解率：95% 再現率：93%



海上設置カメラの映像



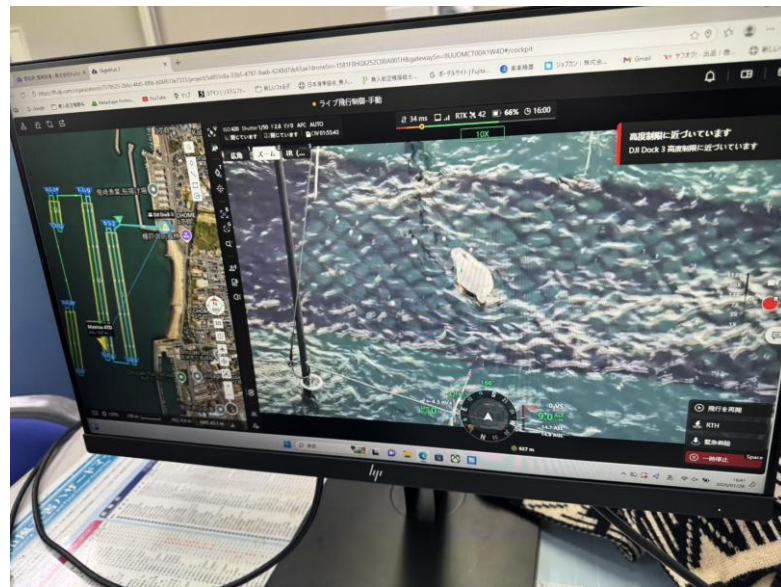
陸上から撮影した映像

鴨の食害動画（柵に取り付けたカメラを録画）

・夜間に3～7時間にわたり海苔を食べ続ける鴨



・ドローンから捉えた鴨の様子

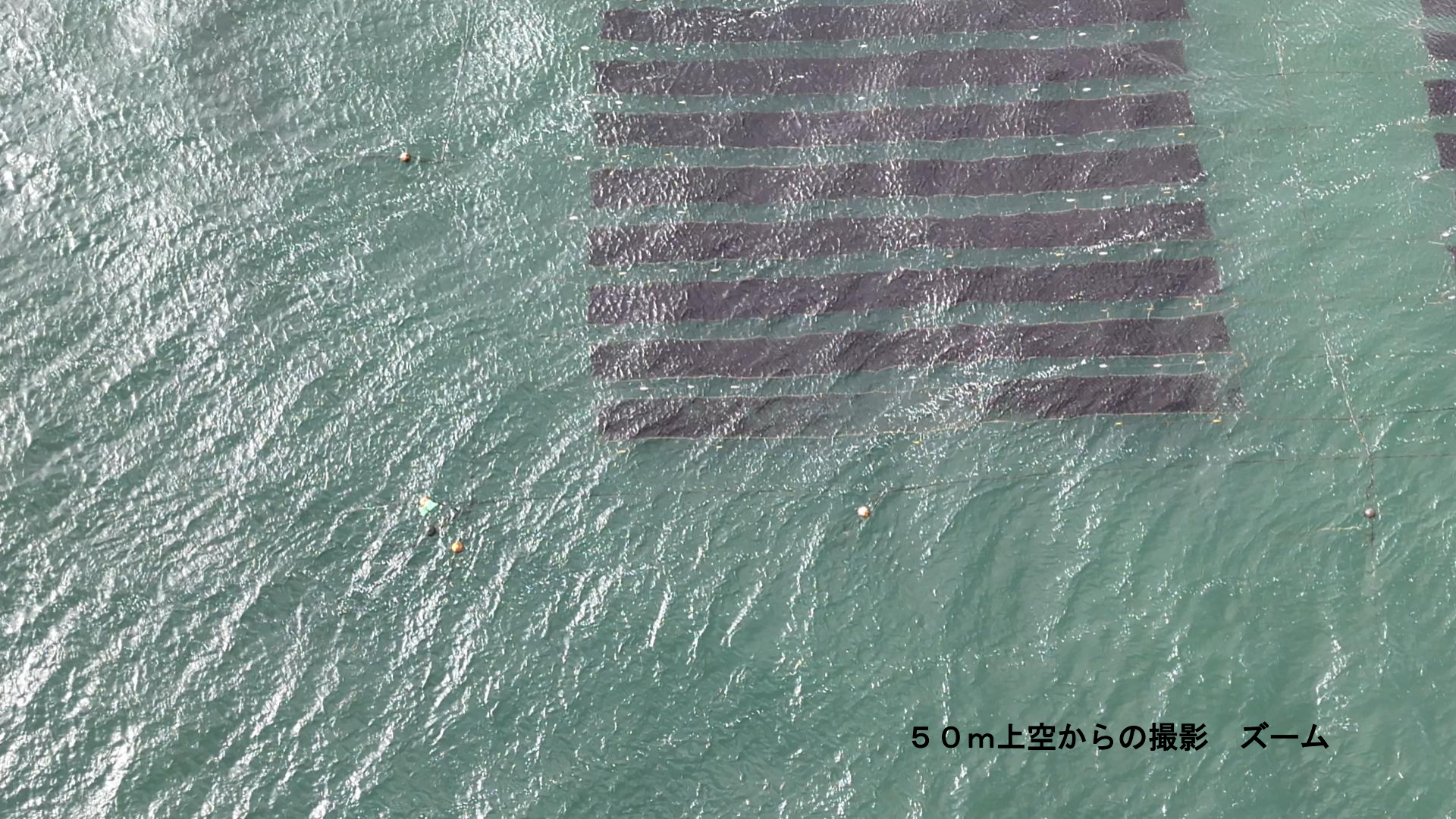


ドローンでその他できること

ドローンで漁師のみなさまの様々な生産性を上げることができます。

- 📍 海苔の赤ぐされの検知の期待
- 📍 日々の海苔養殖場の巡回
 - 網に異物が引っかかっているか
 - ロープや支柱が外れていないか
- 🔊 海苔の色落ちの確認
- 📍 夏場の密漁対策と見回り

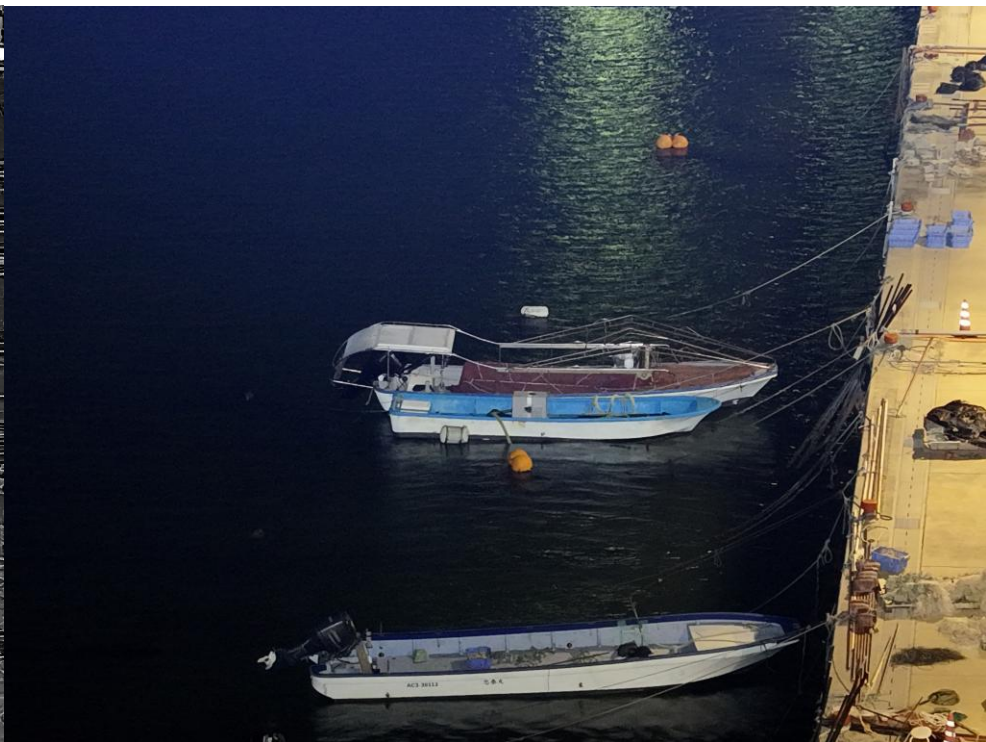




50m上空からの撮影 ズーム



赤外線カメラの映像

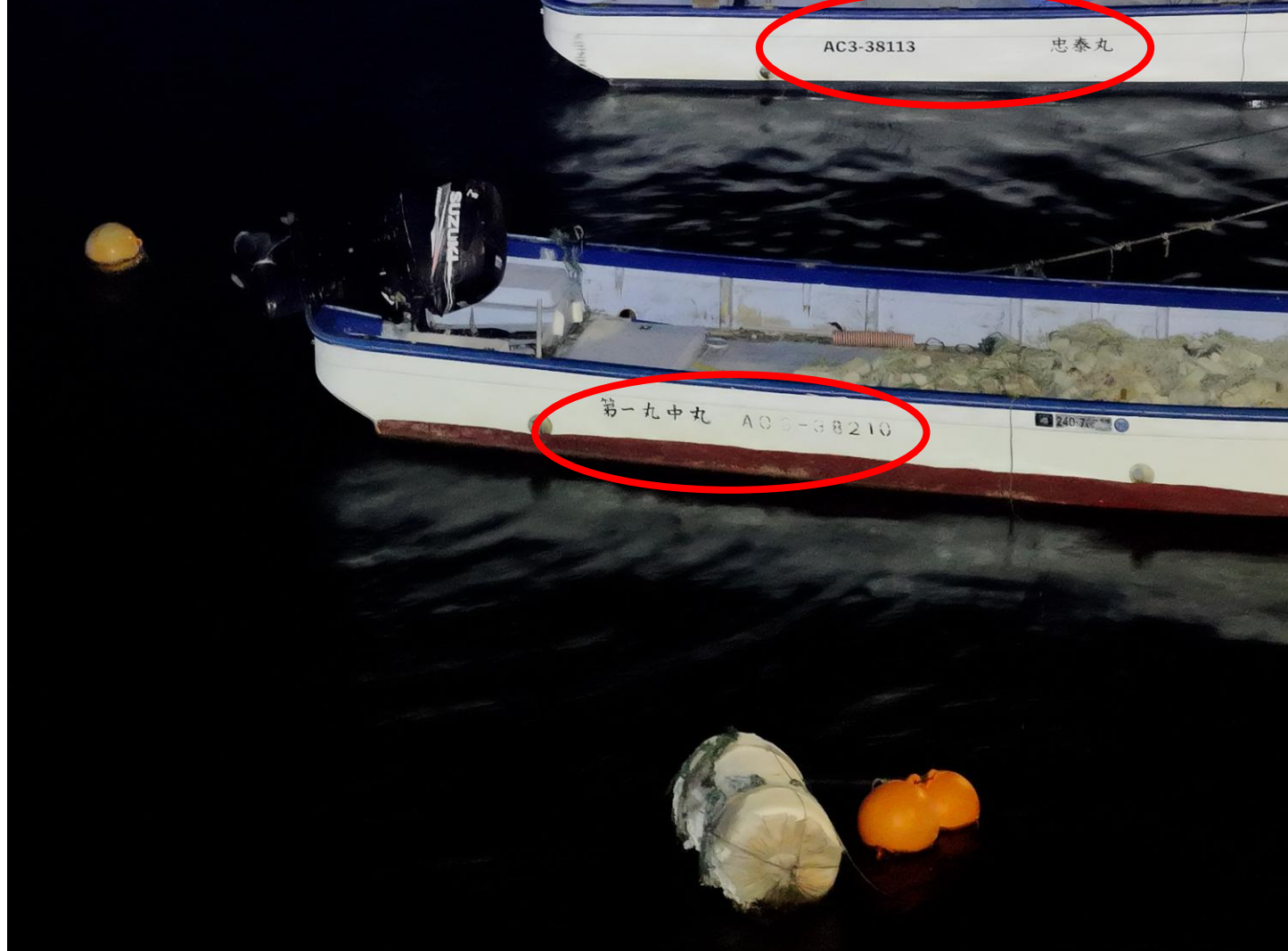


フラッシュを炊いた写真

・船番までしっかりと
とらえることができました。

上空50mからの撮
影です。海上保安庁
等に提出できる資料
になります。

・上空50mからの
ドローンの羽根音は
全く聞こえませんでした。
35mでも確
認済み



自動運転の際のドローンの基地 (Dock3)

【サイズ】

カバーを閉じた状態 (通常設置時) : 約 640 × 745 × 770 mm (長さ × 幅 × 高さ)

カバーを開いた状態 (展開時) : 約 1760 × 745 × 485 mm (長さ × 幅 × 高さ)

【重さ】

総重量 (ドローン機体を除く) : 約 55 kg



AIカメラの今後の展開

Bullet Camera



SN-IPP8085QAS-B

8MP 180° Panoramic Bullet Network Camera



- ご自身のスマホでカメラを見ることができます。（アプリで簡単）
- AIで鴨を検知したらご自身のスマホで通知が来るようにシステムをつくる
- ご自身のスマホからレーザーやフラッシュ、音声を流せます。
- A I カメラとドローンの連携（A I ドローン）
- カメラをスマホで動かすことができます。
- 夜間も100m～200m見えるようなカメラを採用
- 密漁対策もできるように人検知機能など多彩な機能あり。

ドローンVer.

AIカメラによる食害対策ソリューション



① AIカメラが鴨を検知

24時間・夜間も自動監視



② スマホへ通知

リアルタイムでお知らせ



③ ドローンが自動出動

追い払いで鴨を遠ざける



④ 食害被害を軽減

おいしい海苔を守る



夜間対応
赤外線カメラ



クラウドで
映像を保存・確認



Dock3で
自動充電・自動運用

AIカメラによる食害対策ソリューション

AIカメラが鴨を自動で検知し、スマホに通知。さらに、威嚇もスマホからすぐに実行できます。

① AIカメラで24時間監視



AIカメラが24時間リアルタイムで監視

② 鴨を自動検知して通知



AIが鴨を自動で検知し、すぐにスマホへ通知

③ スマホで威嚇を操作



スマホから音声やフラッシュで威嚇

スマホから手軽に威嚇操作



現場の状況を確認

音声威嚇



スピーカーから
音声で威嚇します

フラッシュ威嚇



強力なフラッシュで
威嚇します

威嚇で鴨を
遠ざけ、食害を軽減



24時間自動監視で安心
夜間も見逃しません



早期発見・即対応で被害を軽減
被害が広がる前に対策可能



人手不足の解消・コスト削減
効率的な運用をサポート

ありがとうございました

テクノロジーを、海で使えるカへ

Turning technology into practical power for the ocean.

株式会社ウミト・プラス

海のDXで、漁業の未来を支える